# 東京都における CKD普及啓発活動

2022年12月版

| | | |
|---|---|---|
| 都代表 | 福井　亮 | 東京慈恵会医科大学 |
| 副代表 | 南学正臣 | 東京大学医学部附属病院 |

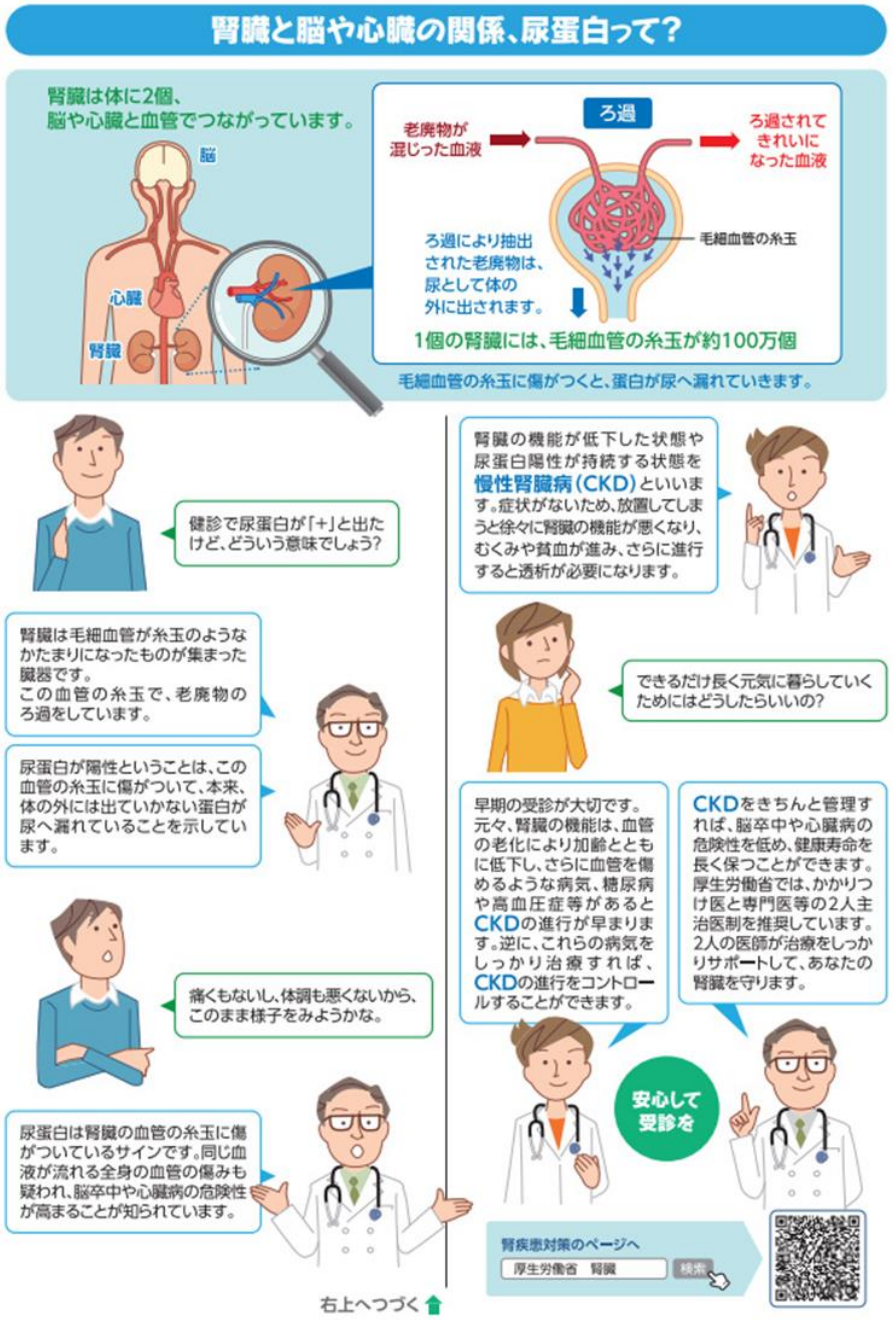
代表

| | |
|---|---|
| 西　裕志 | 東京大学医学部附属病院 |
| 鈴木祐介 | 順天堂大学大学院医学研究科 |
| 横尾　隆 | 東京慈恵会医科大学 |
| 菅野義彦 | 東京医科大学 |
| 要　伸也 | 杏林大学医学部 |

地区幹事

| | |
|---|---|
| 石橋由孝 | 日本赤十字社医療センター |
| 松浦友一 | 国立病院機構東京医療センター |
| 井尾浩章 | 順天堂大学医学部附属練馬病院 |
| 尾田高志 | 東京医大八王子医療センター |

厚生労働省HPより




厚生労働省HPより

# 東京都で実践・検討している普及啓発活動の例 ー2028年までに透析導入10%減を目指すためにー

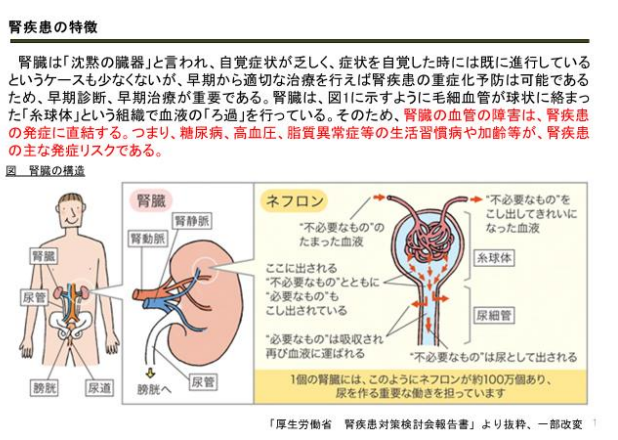
- 検討会報告書（左下図）や厚労省ポスター（表紙）にもあるように、「腎臓は血管の塊であり、CKDは腎血管の障害」と伝えることは有用と考えられる。
- 医療者には、紹介基準の更なる活用や、重症CKDを効率的に抽出して早期介入につなげるため、蛋白尿の意義を啓発することが必要と考えられる。
- 腎臓専門医には、様々なCKD診療の担い手と連携した院内外でのCKD啓発、腎移植の啓発等も期待される（医療連携の資料参照）。
- 多くの社員（市民）と医療者（産業医、医療スタッフ）に同時に啓発できる場として、企業と連携した啓発活動は有用と考えられる。
- 今後は、従来の啓発活動ではアプローチしにくいターゲットへの啓発や、より効率的効果的で持続可能な啓発活動方法の検討をおこなっていきたい。

## 非医療者（行政、市民、患者、医療情報担当者等）への啓発

ポスター、動画、市民講座、社内研修会、行政訪問、CKDシール等による啓発を実践している。特に、「腎臓は血管の塊であり、CKDは腎血管の障害」と伝えることは有用と考えられる。また、蛋白尿で尿が泡立つことの周知も有用である可能性がある。

期待される効果：

- 糖尿病や高血圧が主な原疾患であり、それらの治療がCKDに対する治療でもあることがわかる。
- 蛋白尿の意義がわかる。
- CKDと脳血管疾患（CVD）の関係がわかる。
- 健診受診率や治療継続率の向上につながる。
- 糖尿病性腎症重症化予防PGの充実につながる。



腎疾患の特徴

腎臓は「沈黙の臓器」と言われ、自覚症状が乏しく、症状を自覚した時には既に進行しているというケースも少なくないが、早期から適切な治療を行えば腎疾患の重症化予防は可能であるため、早期診断、早期治療が重要である。腎臓は、図1に示すように毛細血管が球状に絡まった「糸球体」という組織で血液の「ろ過」を行っている。そのため、腎臓の血管の障害は、腎疾患の発症に直結する。つまり、糖尿病、高血圧、脂質異常症等の生活習慣病や加齢等が、腎疾患の主な発症リスクである。

図　腎臓の構造



「厚生労働省　腎疾患対策検討会報告書」より抜粋、一部改変

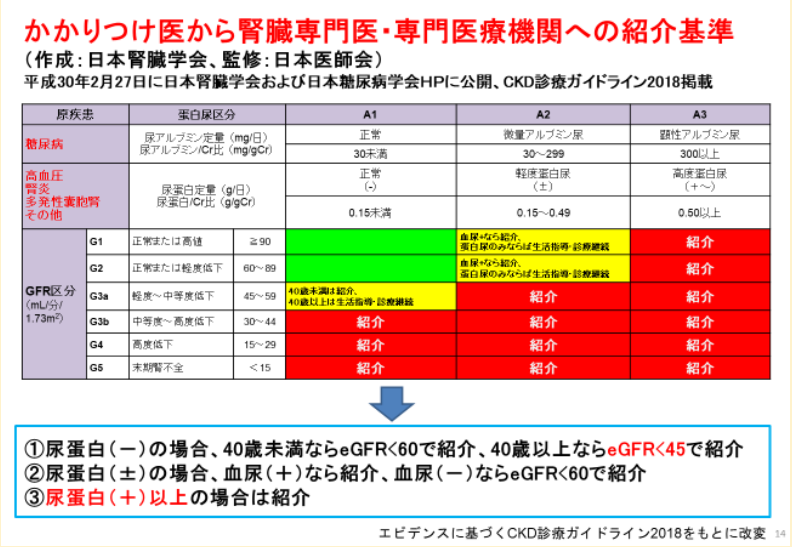
## 医療者（かかりつけ医、非腎臓医、医療スタッフ、行政等）への啓発

ガイドライン等の資材配布、各種講演会、院内勉強会、医師会・協会けんぽ・行政等への訪問、CKDシール等による啓発を実践している。特に、「健診の必須項目であり、CKD診療に特徴的な、蛋白尿の意義の啓発」が必要と考えられる。

また、自施設での尿検査が困難な場合などには、健診の受診勧奨や、他院での検査結果を確認して頂くことは有用である。

期待される効果：

- 紹介基準（下図）の更なる活用につながる。
- eGFR45以上のCKD診断や紹介の増加・早期化につながる。
- 重症CKDへの効率的な介入につながる。



かかりつけ医から腎臓専門医・専門医療機関への紹介基準

（作成：日本腎臓学会、監修：日本医師会）

平成30年2月27日に日本腎臓学会および日本糖尿病学会HPに公開、CKD診療ガイドライン2018掲載

| 原疾患 | | 蛋白尿区分 | | A1 | A2 | A3 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 糖尿病 | | 尿アルブミン定量（mg/日）<br>尿アルブミン/Cr比（mg/gCr） | | 正常 | 微量アルブミン尿 | 顕性アルブミン尿 |
| | | | | 30未満 | 30～299 | 300以上 |
| 高血圧<br>腎炎<br>多発性嚢胞腎<br>その他 | | 尿蛋白定量（g/日）<br>尿蛋白/Cr比（g/gCr） | | 正常<br>(-) | 軽度蛋白尿<br>(±) | 高度蛋白尿<br>(＋～) |
| | | | | 0.15未満 | 0.15～0.49 | 0.50以上 |
| GFR区分<br>(mL/分/1.73m²) | G1 | 正常または高値 | ≧90 | | 血尿・なら紹介、蛋白尿のみならば生活指導・診療継続 | 紹介 |
| | G2 | 正常または軽度低下 | 60～89 | | 血尿・なら紹介、蛋白尿のみならば生活指導・診療継続 | 紹介 |
| | G3a | 軽度～中等度低下 | 45～59 | 40歳未満は紹介、40歳以上は生活指導・診療継続 | 紹介 | 紹介 |
| | G3b | 中等度～高度低下 | 30～44 | 紹介 | 紹介 | 紹介 |
| | G4 | 高度低下 | 15～29 | 紹介 | 紹介 | 紹介 |
| | G5 | 末期腎不全 | ＜15 | 紹介 | 紹介 | 紹介 |

①尿蛋白（－）の場合、40歳未満ならeGFR<60で紹介、40歳以上ならeGFR<45で紹介
②尿蛋白（±）の場合、血尿（＋）なら紹介、血尿（－）ならeGFR<60で紹介
③尿蛋白（＋）以上の場合は紹介

エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2018をもとに改変

## 様々な対象への啓発の例

### 某社と連携した普及啓発活動

食堂でCKD動画公開

その他、会議室、役員席、全国の複数の支社でも公開

同社診療所に「世界腎臓デーコーナー」を設置

東京都のCKDポスター、高血圧、脂質のポスターも掲載

### 図書館と連携した普及啓発活動

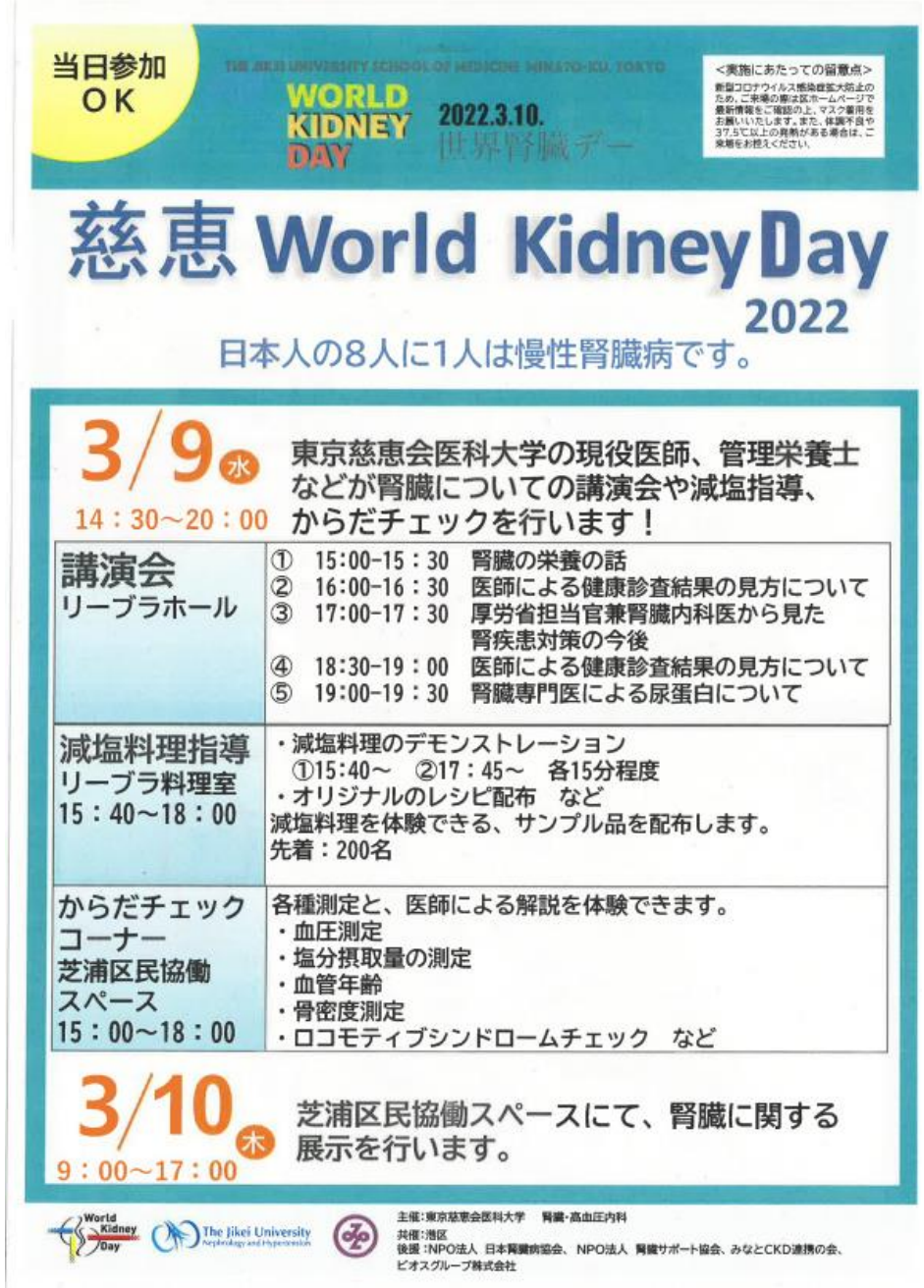
みなと図書館　腎臓コーナー
（2021年3月30日撮影）

昨年に引き続き、世界腎臓デーの時期に実施

都立中央図書館　腎臓病のミニ展示
（2021年6月28日撮影）

タイトル：知ろう！腎臓病
場所：1階　健康・医療情報コーナー
期間：2021年6月4日（金）～2021年8月4日（水）

# 血管疾患の１種としてCKDを啓発　― 2022年世界腎臓デー啓発イベントの開催 ―




- 東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科主催、港区共催、みなとCKD連携の会 後援、厚生労働科学研究費補助金（腎疾患政策研究事業）「慢性腎臓病（CKD）に対する全国での普及啓発の推進、地域における診療連携体制構築を介した医療への貢献」(研究代表者　伊藤孝史）のご支援のもと実施した。

- CKDを血管疾患の１種ととらえ、高血圧症、減塩教室、からだチェック(身体計測、血圧、尿検査、AGE、ロコモチェック、血管年齢、骨密度)等、広く生活習慣病や健康長寿に貢献できる体験型のイベントとして開催した。

- 行政、医療情報担当者、療養指導士を含むメディカルスタッフ、みなとCKD連携の会、若手を中心とした同科医局員への啓発効果(同科松本医師を中心に、後期研修医が実 務を担当)も得られた。

- コロナ禍で入場者数を制限する必要があったため、十分な開催案内は行えなかったが、来場動機の上位は、QRコード付きポケットティッシュ、港区広報、家族・知人からの情報、特設HP、ポスターの順であった。

- 同科世界腎臓デー特設HPで講演スライドを公開している。
https://wkd.jikei-kidneyht.jp/2022/